

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八

葛川「比良山荘」 伊藤剛さん

我が家の別荘は、今津の中庄浜公園前にあり東面は松林の湖に面した浜公園です。元大丸百貨店の保養所を平成十一年に購入し改修しました。一昨年には全て取壊し、約半分の800坪に魔法瓶造りで薪ストーブ完備の平屋を四軒新築しました。別荘への往路に、時折比良山荘でランチを戴くのが恒例になり、当時は「鯉の洗いや川魚」のお料理がメインでしたが、何時の間にか「溪流子持ち鮎」が著名になり予約の取れないお店になりました。また最近では「月の輪熊のしゃぶしゃぶ」で大繁盛、お店も倍に増築されました。下鴨の我が家から別荘まで約六〇キロ、お店は丁度その中位点に位置します。

美術館「えき」KYOTO 8月29日〜9月16日 《動物パラダイス》

京都市美術館は1933(昭和8)年に設立され、当初の面影を残す日本国内有数の歴史ある大規模公立美術館の一つです。本展覧会では来年3月21日のリニューアルオープンに向け、現在再整備工事中である京都市美術館の所蔵品から選りすぐりの名品をご紹介します。第1回目は昨年1月に「きもの美人」、第2回目は今年1月に「花鳥風月」をテーマに開催。シリーズ最後の第3回展では「動物パラダイス」をテーマに日本画、洋画、工芸作品46点を展示します。オープンまでの間、京都市美術館の名品を堪能できる貴重な機会に、竹内栖鳳(六代)清水六兵衛、山口華楊、木島櫻谷、今尾景年、皆川月華らが表現した愛らしい動物たちの作品群をお楽しみください。

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《財務省からアベノミクスを救う/西田昌司著》
消費増税は必要なのか?④

第25参議院選挙が終わった。消費増税、年金等の争点はあったものの投票率は50%を切り戦後2番目の低さだった。「改憲勢力」は改憲の発議に必要な3分の2には届かなかったが与党としてはまずまずの結果であった。麻生財務相は選挙結果を受けて消費増税について「信任をいただいたと思う」と述べ10月に予定通り10%へと引き上げられる見通しとなった。京都選挙区では西田氏、倉林氏の現職2人が当選した。今回は自民党所属でありながら消費増税に反対する西田氏の著書を紹介したい。

土口哲光和尚の説法

《親子のことわざ》に例外者なし》

お盆は親元への帰省も多い。親は子どもを全て受け入れる。昔からの親子の諺には何ともいえない深い味わいがある。「子どものけんかに親が出る」と先みれば人だから「生みの親より育ての親」「子は三界のくびかせ」「死児の齢を数える」「立っている者は親でも使え」などは親子の機微をいつてあますところがない。さらに「親子の仲でも金銭は他人」「亡い子には泣かぬ、ある子に泣く」「せつないときに親を出す」「親は亡くとも子は育つ」「孝行したい時分に親はなし」から「親のズネかじる息子の歯の白さ」の秀逸な川柳では、「白さ」にユーモアがあつていわれぬほど、すぐれている。いちいち身におぼえのあることばかりで「私は例外だ」と、胸の張れる者は誰もいない。

季節の家庭料理 田村 真紀

《九月 チーズと牛ひき肉入り里芋コロッケ》
外はサクサク、中はしっとり食感のコロッケです。
《作り方・十個分》

里芋五百グラム・牛ひき肉百グラム・玉ねぎ半個(みじん切り)・おろし生姜大匙一・酒大匙一・胡椒少々・バター大匙二・薄力粉大匙一・ピザ用チーズ適量 薄力粉、パン粉各適量・溶き卵一個 里芋をよく洗ってレンジで約十分加熱し、粗熱が取れたら皮を剥きマッシュして十分分にする。ひき肉と玉ねぎをバター大匙一で炒め、おろし生姜・酒・胡椒で調味し、残りのバターと薄力粉を加え更に炒める。ラップを広げ、等分した里芋をのぼし中央に炒めたひき肉・チーズを入れラップごと包んで丸く成形する。薄力粉、卵、パン粉の順で衣をつけ百七十度に熱した油で色よく揚げる。

つれづれの記 山崎 辰巳

《上から目線》

かつてバブル期、産業界は売上げや規模の大小が競われ、勝ち組と負け組という評価のされ方をし、大企業と中・小・零細企業などと色分けされてきた。しかし二十一世紀に入って、大企業と目されてきた会社が破綻し、リストラを余儀なくされ、逆にキラリと光る中小の企業が脚光を浴びるといふ現象がいくつも見られ、時代はひとつの転換期を迎えている。これまで中小企業は大手に従属する形で下請けとか業者と呼ばれ、下に見られてきたが、これら企業もれっきとした存在であり立派な協力関係にある会社である。企業に限らずいかなる組織も「上から目線」を排し、相互の存在価値を尊重し、誰もが嬉々として働ける風土を作りだしたいものだ。